

北水試 百年 こぼれ話

① 北水試を創始した人たち

吉田 英雄

キーワード：北水試百年、エピソード、明治時代、北海道庁水産課、人物写真、初代場長



「北水試百周年記念誌」は2001年に発行されましたが、誌面の都合などで掲載できなかった貴重な資料やエピソードが多く残されています。今回は北海道水産試験場設立当時に関わった人たちの写真についてご紹介します。

人物写真が印刷された「三十八年前の水産課員」という資料は、中央水試図書室に残されていました。「1897(明治30)年の北海道庁水産課の陣容」という説明から1935(昭和10)年頃の資料と思われます。業界誌掲載の記事と関連したグラビア写真部分を切り取ったものと考えられ、裏には短い説明も印刷されています。

「秋味三平」という著者名は、いかにも水産関係者が使いそうなペンネームです。

写真前列中央の和田健三は1901年の北海道水産試験場発足時に水産課長兼務で初代場長となりますが、写真の左隣りの野澤俊次郎とともに、当時の北海道における水産重要種の漁期、漁場、漁具

漁法、製造、経済、漁獲統計から魚類目録に至るまで、水産に関する初めての総合的な報告書「北海道水産豫察調査報告(1892年北海道庁内務部水産課から出版)」をまとめています。野澤俊次郎は北水試の前身である、高島村弁天島(現在の小樽市)に1897年に設置された「水産調査所」の初代所長でもありました。なお、写真の中列右端の藤村信吉が二代目場長です。

「本道の水産行政は此人々によりて基礎を築かれたことを思ふ時感謝と尊敬の念を生ずる次第である。」との説明文は我々北海道の水産試験研究機関に携わるものにとっても同感です。

この写真の出所については、未だ不明のままです。特徴的なペンネームでもあり、今後どなたかが発見してくださればと期待しています。

(よしだひでお 中央水試副場長

報文番号 B2301)